



京都 YWCA

3 2022



古都に咲いて100年

ユースによる、ユースのための委員会活動 ～さまざまな社会課題と向き合って～

京都 YWCA に 2021 年度に発足したユース委員会ですが、今年度の主要な活動についての説明に加え、メンバーのコメントを紹介いたします。

【中学校・高等学校 YWCA への出前ワークショップ】

外部環境保護団体 Fridays for Future Kyoto の大学生のメンバーと共に「環境×ジェンダー」のテーマで中学生・高校生に向けてワークショップを行いました。

捉えづらいことこそ解決すべき問題だということです。私も捉えづらさがありましたが、現状に触れると多くの問題に気づきました。安心して暮らすには、問題に耳を傾け興味を持つことが重要だと思いました。積み重ねが未来を守ることにつながると思いました。

(滝沢柚奈)

【SRHR 勉強会】

世界 YWCA が発行した『#MyBodyMyMind』を、全国の YWCA 会員と共に全 4 回の勉強会で読み込み、意見交換をしました。

全国の会員と SRHR（性と生殖に関する健康と権利）とメンタルヘルスの基礎だけでなく、日本の現状も合わせて学びました。「安心して SRHR について話すことができるこのような場はまさに私が求めていたもの！」、「YWCA では会員がそれぞれのリーダーシップを発揮しており、モデルが自分の近くににいる」という参加者からの声を聞き、YWCA らしく、セーフスペースで世代を超えた対話ができたと感じました。勉強会での学びや気づきが今後の活動のきっかけ、基礎となることを願っています。

(東上菜々子)

【カルーナ×ユース委員会コラボ】

京都 YWCA の自立援助ホーム「カルーナ」の居住者に何かにできないだろうかということから開始したカルーナコラボ企画。少しでも彼女たちに楽しんでもらえる時間や、一緒に考える時間をもってもらえるように活動しました。

カルーナコラボ企画では、「カルーナ」に入居中、あるいは退所済みの人を対象に、ディスカッション・ワークショップイベントを開催しています！初めは、少人数で自分の趣味や日頃の過ごし方など、カジュアルな対話から始めました。最近では、仕事やキャリア形成に関するワークショップを開催

し、「働くってなんだろう？」、「3 年後の自分は、誰と何をしているんだろう？」など、一緒に考え共有しました。これからももっと学び合える素敵な活動にできればと思っていますので、興味のある方は、ぜひ一緒に参加しませんか？（白佳奈）

【「慰安婦」問題勉強会】

東アジアの YWCA ユースメンバーとこの問題について話し合う場を作ること为目标に勉強会を行ないました。以下は、11 月に東京の wam（アクティブ・ミュージアム 女たちの戦争と平和資料館）を訪問した際の感想です。

wam に着き一歩足を踏み入れた瞬間に、膨大な量の情報に驚いた記憶があります。数ある展示のそれぞれが多くての文字・写真で詳細に説明されていて、それらを一つずつ丁寧に見て、読んで、何度も込み上げるものがありました。wam の方とお話をする機会があり、まだまだ知識不足な私の質問にも丁寧に答えてくださり、「慰安婦」に関する問題は過去のことで決してなくて、今を生きる私たちも向き合い、考えていく必要があると思いました。今回の訪問は「慰安婦」問題に対する考えが大きく発展した時間となり、大変有意義な時間でありました。このような機会をいただけたことに感謝し、より学びを深めていきたいと思っています。

(田辺梨緒)



東京の wam を訪問したメンバーたち

カルーナトークイベント

出版記念トークイベント×はなしあい

『あっち側の彼女、こっち側の私―性的虐待、非行、薬物、そして少年院をへて』

1月29日に2020年10月に出版された本の著者である結生さんと、小坂綾子さん（元新聞記者）のお二人をお招きして、トークイベントを京都YWCAと関西セミナーハウス活動センターの共催で開催しました。結生さんはオンラインで、小坂さんは会場にお越し下さり、そんな二人の久しぶりの再会を喜ぶように、京都YWCAの会場、オンライン共にたくさんの方に参加いただきました。

お二人の出会いから出版に至った経緯、本に込められた思い、タイトルにもなっている「あっち側・こっち側」という境界線についての視点など生の声をお話しいただき、とても貴重な時間を過ごすことができました。

対談の中でキーワードになっていたのは「支援する側、される側」という見方で、そのことが人と人との関係構築において時に障壁になってしまうことがあり、対談後のグループセッションの大きなテーマになりました。それぞれのグループでは、「『支援する人、される人』とはどういうことか?」、「それは状況によって入れ替わることがあるのではないかな?」、「日頃自分はどのようなスタンスで関わり、何を大切にしているのだろうか?」等々、答えのないテーマについて参加者一人ひとりが今までの自分の在り方を振

り返りながら、さまざまな思いを熱く語り合い、改めて深く考える機会になったと思います。

さて、これから自分は目の前にいる相手とどう向き合っていくのか・・・

今後の関わりの中で迷いや壁にぶつかった時、結生さんの「支援する・されるという関係性ではなく、まずは一人の人間として向き合ってほしい」という言葉が、素晴らしいヒントになったのではないのでしょうか。（三上彩）

著者 結生さんの言葉

親から虐待を受けて育ち、非行に走って少年院に入った私は、ずっと自立の意味を履き違えていました。京都YWCA自立援助ホーム「カルーナ」は、そんな私に自立の本当の意味を考えさせてくれた場所でした。この本では、私の幼少期から、少年院をへてカルーナで過ごし、社会参加するまでを綴っています。カルーナでの生活には生きていく上でのヒントがたくさん詰まっていること、そして、支援者や、さまざまな立場の人とのつながりがあって成長できたことを、この本を読む人たちに感じてもらえれば嬉しいです。
〈著者：小坂綾子、結生 出版社：朝日新聞出版〉



オンラインお話し会

福島を知る

2011年3月11日の東日本大震災東京電力福島第1原発事故により被災した子どもたちのリフレッシュプログラムは、新型コロナウイルス感染症により中止を余儀なくされています。平和・環境活動委員会は、1月28日、オンラインでのお話し会「福島を知る」を開催しました。

日本YWCAが運営する「カーオふくしま」（福島在住の女性・子どもの交流スペース）の佐藤純子さんが保養プログラムに参加した子の保護者対象のアンケートを紹介されました。「子どもの将来の体や心の健康に不安がある」「復興の名のもとに忘れられていくことに不安がある」といった声や、コロナ禍で保養への意欲があってもあきらめる人が多いが「社会状況が落ち着いたら今後も参加したい」「保養プログラムの継続をしてほしい」という声から支援のニーズはあるのだと示唆いただきました。「カーオふくしま」に繋がりがあり、親子で名古屋及び神戸YWCAの保養プログラムに参加されたこと



『こんど、いつ会える? 原発事故後の子どもたちと、関西の保養の10年』はようかんさい編著/石風社 関西で保養を進めるグループのメンバーの本が12月に刊行されました。京都YWCAでも販売中です。

のある福島市・二本松市在住の2人の母親・佐藤康子さん、岡祥恵さんは、被災直後それぞれ幼児であった子どもたちのこと、現在の生活を選択したことについて、留まるか、避難するかを決断には「100の家族には100の選択がある」と率直に語られました。

保養での思い出は、「大学生が子どもたちと意思の通いやすくてくれた楽しい時間や、開催者が参加者の思いを受けとめようとしてくれていることが実感できたのが嬉しかった」と言われたのが印象的でした。

保養を通じて、多様な人との出会いがあり視野が広がったこと、親としては、将来のことは前例のないことなので不安も感じつつ、子どもに対して、リフレッシュを含めできる限りのことをしてあげたいという思いがあること、しかし保養に対しては周囲の人々の理解が一様でない、11年の歳月により、下の世代（今子育てをしている世代）に保養の意味が浸透していないことを感じている、というお話も心に残っています。

このお話し会には、各地で保養の活動をされている方々だけでなく、今後何かできることはないかと考えている大学生や海外からの参加もありました。福島を知る、今後について考える機会となりました。（弘中奈都子）

オンライン講演会

「外国人女性の妊娠・出産の現状と課題」

～技能実習生リンさんのケースを中心に～



1月8日、熊本の外国人支援団体「コムスタカー外国人と共に生きる会」の代表、中島眞一郎さんにオンラインでご講演いただいた。以下はお話の概要である。

2020年12月末現在、日本在住外国人は約289万人、うち被雇用者は約172万人でその23%を技能実習生が占める。しかしこの制度には、建前上の「我が国の技能・技術・知識の開発途上国への移転、当該国の経済発展を担う人づくり」という目的と、「安い労働力」でしかない実態との乖離がある。

外国人技能実習機構が設置され、監理団体（実習生を実習先に紹介する団体）に対するさまざまな規制と、実習生に対する保護方策も取られているが、十分機能していない。送り出し国での巨額の手数料借金や家族帯同を認めないなどの問題もあり、監理団体や実習先との圧倒的な力関係の中、我慢して働く、逃げる、途中帰国する、しかない現代の「奴隷制」とも言える。

妊娠・出産に関しては、2019年3月「妊娠・出産による不利益取扱の禁止」の通知が出され、20年2月初めて、技能実習生同士の間にも生まれた子どもに「特定活動」の在留資格が、母親に産休が認められた。しかし、同様の状況

は3年強の間に637件確認されており、うち実習を再開できたものはわずか11件であった。

ベトナム人リンさんは2018年8月農業技能実習生として来日。帰国させられることを恐れ、誰にも相談できず孤立の中で20年11月15日に双子を死産した。疲労とパニック状態の中、ベトナム式に埋葬する意思のもと遺体をタオルに包んで段ボールに入れ、名前と弔いの言葉も添えて部屋の棚の上に置いた。そのことが罪に問われ、死体遺棄罪で逮捕起訴された。

2021年7月一審で有罪判決を受けたが、技能実習生の妊娠・出産が想定されていない現状を訴え、孤立出産・死産を刑事罰の対象としないこと

や、日本で安心安全に出産できる環境整備、女性のみを罰する女性差別の是正、またリンさん自身の今後も日本で働き続けたいという希望のためにも無罪判決を勝ち取りたい。

（神門佐千子）

※講演後の1月19日、福岡高等裁判所での二審も有罪判決が出された。



講演される中島眞一郎さん



シリーズ——京都YWCA100年の歩み(7)

「親・子育てを支援する～孤育てを超えて～」(2004～)

2004年：「子どもの教育を考える委員会」設立

従来京都YWCAが親・子どもに関わる活動は、「教育事業委員会」が携わり、児童英語教育、98年からシリーズ「子どもが楽しみ、親が育つひととき」が開始され、『絵本の世界』講座、「親と子のリズムあそび」、食育や環境に関する講演会等が開催され、多数の参加者を得て収益を上げていた。これらの事業に参加した方々のなかから自発的に「親子ライブラリー」が開設され、「親と子のリズム遊び」の運営にも関わり始めていた。また、その頃の学校教育現場は、「いじめ」「不登校」「学級崩壊」など子どもが安心して学べない状況が多く、「教育」と名の付く委員会の委員として、子どもを取り巻くさまざまな教育環境を考察し、社会に問題提起をしたいという思いが募っていた。

そこで、「親子ライブラリー」と「親と子のリズム遊び」を包括して「子どもの教育を考える委員会」を設立。教育現場の当事者を迎えての講演会、子どもの育ちについての講演会、2006年には、子どもの言葉と発達に心配のある親のための「親の談話室」（後に「おやのだんわしつ」へ改称）の開室、プログラムに参加する親をサポートするための「保育サポーター養成講座」の開講、「子どもまつり」、

聴くだけではない参加型の「音楽会」も開始され、名称は変更されながらも現在も継続して活動している。

2012年：「親・子育て支援活動委員会」へ

子育ての孤立、児童虐待、子どもの貧困が社会問題化し、子どもを取り巻く環境は厳しくなるばかりのなか、あらためて「親も子どもも孤立することなく」「ひとりひとりが大切にされる社会」を目指し、特に子育て世代を応援しようと名称も「親・子育て支援活動委員会」に変更。「ここ」から（親と子のリズム遊び、シュタイナー教育 / こそだておはなし会、マクロビオティック料理）も縮小して加え、2017年には、小学生の放課後の居場所、夏・冬・春休みの子どもの居場所としてプログラム「ガジュマルの樹」も運営することになった。



2001年12月の親子クッキングプログラムでの一コマ



ロビーショップ夏みかん



京都 YWCA 本館ロビーにある可愛くて小さなショップの名は、中庭の夏みかんにちなんで名付けられました。京都 YWCA に集う会員、居住者、地域の人々などに利用してもらうため、ショップチームのメンバーこだわりの商品を扱っています。半世紀くらい前に会員の要望で、お菓子の材料や外国産チーズの共同購入が、今のショップに繋がっています。ロビーに置いてある冷蔵ショウケースも当時の会員の寄付で数年前に買い替えたものです。これから先も、みなさんに親しみやすいお店作りを目指して、これからの半世紀に繋がればと願っています。

(イエニックふたみ)



「京都 YWCA 100 周年記念募金」 へのご協力をお願い



京都 YWCA は 2023 年に 100 周年を迎えます。現在、年齢や文化的背景の異なる人々が出会い、協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しています。この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施いたします。ご寄付は以下の目的に充てられます。皆さまのご支援をお願い申し上げます。

- 担い手育成・次世代育成のために
- 保育環境の向上のために
- W・M・ヴォーリス設計「サマリア館」の補修のために
- 歴史を未来に引き継いでいくために

目標額：1,000 万円

募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

募金額：個人 1 口 3,000 円

団体・企業 1 口 10,000 円



郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

京都 YWCA へのその他のご寄付の詳細は事務所に問い合わせさせていただきます。ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

ご協力ありがとうございました

2021 年 12 月 1 日から 2022 年 1 月 31 日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

清水義、伊原千晶、筒井奈都子、鍛冶富美子、宮武美知子、岡佑里子、安田順子、野原博子、日本キリスト教団京都上賀茂教会、株田中工務店

木戸さやか、今野玲子、菅原充子、西原美那子、仲本直子、匿名、ヌヴェール愛徳修道会、同志社中学校、ノートルダム教育修道女会、京都・東九条 CAN フォーラム、希望の家カトリック保育園

各指定寄付

* 100 周年記念募金

安藤幸枝、伊原千晶、弘中奈都子、今井貴美江、上村達郎、清水義、田中愛子、畠中隆子、有田佳子、岡佑里子、木下和江、横川宏美、匿名、京都ウイングワイズメンズクラブ

* 親・子育て支援活動委員会

岡佑里子、赤尾陽子、日本キリスト教団洛南協会

* 平和・環境活動委員会

今井貴美江、平野富希

* ふれあいの「居場所」事業部委員会

宮武美知子

* 多文化共生委員会

安藤いづみ、横江美佐子、中川美佳子、坪野えり子

* APT

マーサ・メンセンディーク、宇山進、吉村富式、窪田誠司、手島千景、織田雪江、杉山知子、齊藤洋子、川島康史、田中愛子、岡佑里子、林律、

* ユース委員会

室町教会オリーブの会、平安女学院中学・高等学校宗教センター

* 自立援助ホーム「カルーナ」

井上摩耶子、横江美佐子、岡佑里子、小杉總子、織田雪江、水野篤夫、齊藤大輔、石田裕明、竹岡哲朗、文田則子、平野富希、竹之下雅代、木戸さやか、窪田誠司、伊原千晶、大手理絵、榎本愛美、亀田和代、横川幸治、有田佳子、兼井恵子、匿名、日本聖公会聖アグネス教会、日本キリスト教団京都丸太町教会シオン会、日本キリスト教団京北教会、日本基督教団桂教会、認定こども園福井聖一幼稚園、平安女学院中学・高等学校宗教センター、愛の図書 京都府更生保護女性連盟、自立援助ホームミモザの家

* 保育園

安藤いづみ

* 賛助費

中村美智子、中村和雄、白根睦久

サービス付き高齢者向け住宅

「京都 YWCA サラーム」入居者募集中

60 歳以上の女性を対象に入居者を募集しています。

サラームは 2013 年度国交省「高齢者・障害者・子育て世帯居住安定化推進事業＜先導的的事业＞」に選ばれています。詳細は事務所（075-431-0351）までお問合せください。



11・12 月／理事会報告

- 留学生寮「あじさい寮」に 12 月より 6 名の留学生が入居した。
- 自立援助ホーム「カルーナ」：退所者に年末年始支援物資を配給した。1/15 に新年会&成人式を行い、恒例の着付け支援を得て利用者は着物を着て参加した。
- あじさい保育園：入園説明会を実施（2/26）。地域向け子育て支援として、園庭開放（月 1 回）、リズム遊び、親子ライブラリーによる読み語り、こそだておはなし会等を行っている。
- 居場所食堂うららかふえ：中学校のチャレンジ体験（職業体験）

の依頼を受けて生徒 1 名を受け入れた。

- 多文化共生委員会：1 月に多文化ルーツ子どもニュースレターを発行した。
- 100 周年記念実行委員会：京都 YWCA の 100 年の歴史を振り返るシリーズ第 3 回を実施（2/19）。ヴォーリス建築サマリア館をテーマにした募金イベントを実施予定。オンライン寄付決済導入の準備を進めている。

KYOTO YWCA No.567 2022 年 3 月号（3月1日発行）

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電話：(075) 431-0351

FAX：(075) 431-0352

e-mail: office@kyoto.ywca.or.jp

H P : <http://kyoto.ywca.or.jp>

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財) 京都 YWCA

定価：1 部 50 円

発行：奇数月 1 日発行